

令和元年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292700028		
法人名	社会福祉法人水鏡会		
事業所名	グループホームひだまりの里		
所在地	〒039-0814 青森県三戸郡南部町垵渡字館2番地7		
自己評価作成日	令和 元年 10月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和 元年 11月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭菜園を行っており、職員・入居者が一緒に畑作りから、種植え、収穫を行い、収穫された野菜を、日々の献立に利用し、季節感を味わいながら楽しく食事をして頂いている。 ・玄関周囲などに花を植え、職員と入居者が一緒に管理をし、世話を行なうことで意欲に繋げている。 ・年間の行事を充実させ、個別的な買い物や外出に力を入れ、日々の生活の充実に努めている。 ・看護師2名が常勤となっているため、入居者の健康管理や、異常の早期発見ができています。 ・3ユニットの行き来がしやすく、行事を大勢で楽しむことが出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>緑に囲まれた閑静な環境のなかにあり、玄関の間口は広く、玄関からホールは全体的に明るく開放的である。各ユニットごとに過ごしやすいように工夫されており、交流が盛んである。敷地内の散策も自由で家庭菜園も行っている。四季折々の季節感を楽しむことができる。入居者が楽しみを持って過ごせるようにスタッフが知恵を出し合い、レクリエーションや外出の機会も多くある。委員会も数多く、入居者のために、法人全体で取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の内容を職員が、毎朝唱和し、実現にむけて取り組んでいる。各ユニットの処遇目標もユニット内に掲示し、達成に向けて努力している。	朝の申し送り後に、グループホームの理念を唱和している。毎年1年の処遇目標を各ユニットで決め、達成できるようユニット内に掲示し日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り行事などに参加することによって、挨拶を交わしたり、顔なじみの方々との交流を心がけている。	入居者の出身地のお祭りへの参加を支援している。法人本部主催の夏祭りや文化祭へ参加し顔なじみの関係を築いている。地域の保育園や幼稚園の子供たちが敬老会やクリスマス会へきて交流を深めている。又、ネットワーク会議により、町内の10事業所との繋がりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト職員が、認知症サポーター養成講座を定期的で開催している。また、法人主催の介護予防教室にも参加し、認知症に関しての知識や支援方法などを伝授している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催している。入居者状況や日々の活動、行事などの実施状況をパソコンを用いて報告し、意見・情報交換を行っている。話し合いで得たものは、改善したり取り入れたりしている。	運営推進会議メンバーである家族が参加しやすいように午後6時から開催している。健康福祉課の担当者やユニット代表の入居者が参加している。入居者からの意見等を話し合いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉担当者と電話やメールで連絡・相談をしたり、直接会って問題解決に向けた話し合いを積極的に行い、協力関係を築くよう努めている。	入居者の相談、家族の要望と入居者の状態が合わないときの対応や生活保護者の件など、その都度相談し助言を受け、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置している。定期的に会議をし情報を共有している。また、勉強会を開催し、正しい理解に努めている。日中は玄関・非常口を施錠せず、自由に入出入り可能な状態にしている。夜間は安全確保の為施錠している。	法人が設置している身体拘束廃止委員会のメンバーとなり、毎月行われる会議の内容をスタッフへミーティング時、周知している。出入口はたくさんあるが、施錠することなく自由に入出入りができる。夜間は、防犯上施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し学んでいる。また、外部の研修にも積極的に参加し、新しい情報を得ている。日々のケアの中でも職員が協力し、ストレスを緩和できる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会や研修報告会などで制度について学ぶ機会を設けている。必要とされる方には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約、改定に関する説明時は、丁寧に理解しやすい言葉を用いて行っている。契約は1年更新とし、年に1度は、契約内容の再確認と近況を報告している。退去時には必要な情報を提供している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様の声委員会を設置している。定期的に入居者様やご家族様から意見や要望を聴取し、ケアに反映させている。日々のコミュニケーションからも本人・家族の思いをくみ取る努力をしている。	玄関へ意見箱を設置し意見書を投稿しやすい環境にある。意見箱に投稿されたことは、法人の苦情委員会にて検討して持ち帰り、運営に活かしている。個別に意見を頂いた方へは、直接取り組みを伝えている。	ご意見・要望等を頂いて改善したことや取り組みを行っていることを一部の方だけではなく、皆さんへ報告・周知できるような取り組みを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングや勉強会で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。日常においてもその都度意見を聞き、問題の解決にむけて取り組む努力をしている。	月1回のミーティング・リーダー会議の他、日常においても、その都度意見や提案を聞き、問題解決に努め働きやすい環境作りをしている。解決できない内容は、法人会議にて検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の努力や実績、勤務状況等の把握に努めている。代表者は、職員が働きやすい環境の改善及び整備、人員確保に日々取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の資格や力量を考慮し、スキルアップに向けて、研修の参加を積極的に進めている。また、必要な資格取得に向けての支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワーク会議に参加し、情報交換や共有、相互訪問を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や個人面談時には、本人の思いに耳を傾け、不安が少しでも緩和できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時には、家族の本人に対する思いやこれまでの苦難・不安を聴取し、サービス利用に関しての思いをくみ取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時、家族と本人の思い、要望に対し、課題を見極めたうえで施設でできることを丁寧に説明している。また他のサービス利用も含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活を一緒に過ごす中から、本人の出来る能力を見極め、家事を手伝ってもらっている。入居者から学んだ知恵を活かし、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会や電話・毎月のお便り等で入居者の様子を伝えている。入居者の思いと一緒に考え、アドバイスもらい、協力していただく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に入居者の出身地の祭りに参加したり、家族との外出を支援し、馴染みの関係の継続に努めている。	入居者の地元で行われるイベントへ参加するために家族が対応できないときは、個別に連れていく。また、近くのスーパーへ買い物へ一緒に行くと知人と会うことが多く、近況等話をし馴染みの関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手伝いや役割を通じて、利用者同士で支え合う関係が出来ている。施設内を自由に行き来することによって、馴染みの関係も築くことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ご家族様の相談には随時対応している。また、必要に応じて、アドバイス等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人からの情報収集や日々の関わりから本人の希望、意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方は日々の言動や表情などから思いをくみ取るようにしている。	入居前に担当ケアマネジャー・家族・本人より、どのような生活を希望するか確認している。当グループホームがどのような事業所か理解していない家族もあり、丁寧な関わりを持ちながら、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴などを聴取し、その人らしい生活が継続出来るよう把握に努めている。独居生活だった期間の生活歴が分からず対応に苦慮することが増えてきている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活を記録している。バイタルサイン・食事・排泄・入浴・睡眠状況等から体調の変化を把握し、職員全員が共有出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・各分野での話し合っている。意見や要望を反映し、今必要な支援は何かを考えた介護計画を作成し、家族・本人の承諾を得ている。	担当者が、よりよく暮らすために必要なケアのあり方について、本人と話し合い、家族へ電話やお便り(月1回)で近況を報告し希望・意向の把握に努めたうえで、それぞれの意見等現状に即した介護計画を作成し本人・家族の承諾を得ている。ミーティングにてモニタリングを行い、次のプランへ反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録している。情報を共有し、ケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望があれば、出来る限り外出、買い物などの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を活用し、各分野の方と意見交換を行い、入居者の生活に活かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のほか、入居者や家族が希望する医療機関を受診出来る支援を行っている。定期受診以外で体調に変化がある際は受診し、入居者が適切な医療を受けられる体制を整えている。受診結果は家族に報告し、情報を共有している。	家族対応にて、主治医への通院を継続している。家族が対応できないときは、通院への支援を行っている。病状が落ち着いてきたときは、紹介状にて嘱託医の往診になる方もいる。緊急時は、家族へ連絡、通院同行し適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置している。報告・相談する事で利用者が適切な処置、受診が受けられる体制を整えている。介護職員の安心感にも繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院に設置されている地域連携室と連絡を取り、早期退院に向けて協働している。また、家族とも連絡をとり、病状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、入所時に重度化した場合の対応や、看取りに関する考え方を文章化し十分な説明を行っている。病状が終末期にむかっていると判断した時は早期に話し合いの場を設ける様にしている。	入居時に重度化した場合の対応や看取りに関する考え方を文章にして説明を行い、1年に1度意向の確認を行っている。経口摂取が難しくなったり等、身体状況が変化した場合には話し合いの場を設け、グループホームでできることを十分に説明しながら家族の意向・方針を共有しスタッフへの教育も実施され、地域の関係者とともにチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の中に応急手当普及員の資格を持つ者が、定期的に応急手当の勉強会を開催している。また、年に1回AED講習会を開催し訓練を行い、急変時にあわてず実践出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼夜を想定し避難訓練を実施している。発電機を使用し、停電を想定した訓練も行い、非常食等の備蓄も完備している。緊急通報装置で業者が駆けつけるシステムを備えている。	年1回消防署員立ち合いにて訓練を実施している。2か月に1回程度、日中・夜間・火災・地震・停電等を想定し発電機を誰でも操作できるよう訓練を行っている。非常時は、緊急通報装置にて業者が駆けつけるシステムを備えており、非常食の備蓄も完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体で、言葉使い等の対応の改善に力を入れている。日頃より利用者の目線に合わせて話しかけることや、ゆっくり優しい言葉かけをするよう心がけている。排泄時や居室でくつろぐ場合はプライバシーを確保するよう配慮している。	言葉使いに気をつけている。各ユニットを自由に行動しているので、誇りやプライバシーを損ねないように、本人の行動に合わせてレクリエーションや排泄時のケア等行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい関係作りに努め、自ら希望・要望が言えるよう働きかけている。日々の生活の中でも、自分が選択・決定出来るような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、入居者の訴え、希望を尊重するよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に一度の訪問理容を行っている。希望者には毛染めも対応している。外出時や行事の際には、化粧をし、おしゃれを楽しむ支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳・片づけ等、職員と一緒にしている。リクエストがあれば、メニューを変えたりと臨機応変に対応している。家庭菜園で採れた野菜も料理に取り入れている。	男性女性関係なく食事の下ごしらえ、食器拭き等行っている。食事のメニューは、冷蔵庫の中の食材をみて入居者と一緒にメニューを考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を毎回チェックし把握している。入居者個々の状態に配慮した食事形態で提供している。本人が食べたい物にも出来る限り対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、職員が個別に歯磨きや義歯の洗浄を行っている。自分でやっている方には、定期的に確認し磨き残しがないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツの使用を減らし、自立に向けた支援をしている。トイレでの排泄を促すためにも、排泄パターンや習慣を把握するよう努めている	各ユニットを自由に行き来をしているが、それぞれしている様子から、入居者の行きたいトイレへ案内している。自宅での習慣から食後にトイレに行くことを活かして排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、飲食物に工夫や(繊維が多い食材や水分・乳酸菌など)、運動・腹部マッサージ等、入居者にあつた予防に取り組んでいる。排泄困難時は看護師による摘便・浣腸等の処置も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴曜日を定めるなどの一定の日課はあるが、本人が希望すれば、出来る限り希望の日時に入浴出来るよう支援を行っている。	月火木金と入浴日を決めているが、拒否があれば、日中・夜間一人ひとりの希望やタイミングに合わせて個浴にするなど、個々に応じた支援を行っている。ゆず湯など入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課を決めて一日のリズムを整えるように努力している。不眠傾向の方には足浴や温かい飲み物の提供・話し相手になる等、安心して休めるよう状況に応じた、支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用を明記したものをカルテに入れ理解している。服薬時も確認するようにし、薬の情報をファイルにも入れ、すぐ見れるようにしている。変化があつた時は、すぐに看護師に報告し指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴の把握に努めている。今、何が出来るか、何をしたいかを考え、一人ひとりの状態に合わせている。掃除・調理・裁縫・畑仕事など役割をこなしたり、ドライブ・買い物・アクティビティ等の気分転換も支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があれば買い物・散歩等の支援をしている。ホーム周囲は整備されている為、自由に外へ出て散歩する事が出来ている。リフト車もあるため車いすの方も気軽に外出できている。	近所のスーパーへ普段の買い物へ出かけている。家族と公共機関・墓参り・自宅へ外出している。リフト車を利用し、車いすの方も一緒に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭管理能力を考慮して、自己管理できる方には持って頂き、必要に応じて、買い物等で金銭のやりとりが出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をしたり手紙を出している。出来ない部分は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や掃除をこまめし、不快にならないよう配慮している。景色や会話を楽しめるようイスやソファを置いたり、プランターの花の世話が出来る工夫もしている。。	天井が高く、明るい空間を利用し、環境整備の美化委員により、居心地のよい空間作りが行われている。エアコンを利用することにより、季節の変わり目等感じない居心地のよい、開放感のある工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が話を出来るような座席の配置や環境作りをしている。。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間があまり広くないため、既存の収納タンスを利用して頂いているが、入居者が使い慣れたコップや箸等も使用し、安心できる工夫をしている。	自宅から、仏壇や家族写真、愛用の布団等馴染みの物や使い慣れた物を持参したり、本人が作成した作品飾り、寂しくなく居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力に応じて出来る限り、通常の日課は一通り行なえるよう支援している。食事準備、後片付けから洗濯、掃除まで、職員と一緒に空間で行っている。		